

第二回理事会報告

日時 平成21年10月

6日(火)

午前11時～午後3時

会場 江戸東京博物館

学習室

出席者

全国連合退職校長会

会長・副会長・常任

理事・理事等

69名

司会進行

戸張敦雄総務

1、開会の辞

中村貞夫副会長

2、「綱領」唱和

先導 大野幸男総務

3、挨拶

廣瀬 久会長

この夏、政権が交代しましたが、われわれとしては基本的なことは変える必要はないと思う。しかし、これからは適宜適切な対応をしなければならぬ。具体的なことは総務部で考えて

いってもらおう。それに関して、各都道府県の皆様のご支援・御協力をお願いしたい。それをふまえて中央省庁や国への働きかけを強めていきたい。

4、本日の理事会の運営について

入子祐三総務部長

5、報告事項

入子祐三総務部長

(1)第一回副会長会及び三つの省への要望書提出の報告

(会報173号に掲載)

(2)「教職員の定数改善及び少人数学級の実現に関する要

望書」

(陳情)

全連退も教育関係二十三団体と連携して、去る九月十六日～十八日、国会議員会館を訪問し、表記の件について要請活動を行った。

(3)各部、各委員会の活動状況の中間報告

(4)第二回、第三回常任理事会の報告事項・協議承認事項の報告



理事会会場

(5)細則・内規について

①各部及び各委員会に関する細則 第1条 会則第10条

第2項の特別委員会として、次の委員会をおく。生涯学習委員会、教育課題委員会、事業委員会

②「会務報告」と「事業計画」についての見解

「会務報告」の報告内容の見直しをする。次の内容をまとめて報告する。

○総会 ○理事会 ○常任理事会 ○副会長会 ○事務局長会 ○部長会 ○部

・役員増を目指す基本的な考え

①現職校長への支援(国への要望等を重視)

②「宣言」・「決議」文案の作成に関する内規(省略)

③役員(会長・副会長・監事)の選出に関する内規

付則2 役員(会長・副会長・監事)が任期途中で退任した場合は、残任期間の代行者を選出母体で推薦しその職務を代行する。代行者については、直近の理事会に諮り承認を受ける。

④「宣言」・「決議」文案の作成に関する内規(省略)

内規あるいは細則は、会長の専決事項として存在するものである。

⑥各県の加入状況調査報告及び平成二十二年度以降の加入者増を目指す取り組みについて 徳永裕人事務局長及び野口玲子総務

平成二十二年度以降、三年間を用途に新しい方式を考える

・役員増を目指す基本的な考え

①現職校長への支援(国への要望等を重視)



廣瀬会長より感謝状贈呈

②教師の指導力向上のための支援

③教師の子ども、保護者、地域社会への多様な対応力の支援

④退職校園長の福利厚生を高める

⑤所属意識、連帯感を醸成し、同じ道を歩んで来た者同志の絆を一層強める

⑥会報等により情報を共有し、会員が互いに支え合い「生きる力」を一層高める

これらの基本的な考えを

着実に広め、深めていくために、本会の財力を高め、腰を強くする必要があります。

6、入会率優良県への感謝状贈呈

平成二十一年度退職校園長の90%を超える加入率を達成した二十一団体に感謝状を贈呈した。代表として香川県退職校長会会長に全連退会長から手渡した。

——休憩・昼食——

7、協議事項

(1)監事の承認について
坂本淳一先生が病気で出席できないため、付則2により、沖中忠男先生が三重県から推薦されたので、この理事会で承認された。

8、「地区会」

副会長を中心に八地区に分れて意見交換・協議（会員増強の実践状況、各都道府県退職校長会の当面する課題・問題点、本部への要望等について約五十分間話し合いを行

った）

9、「全体会」各地区の報告

(1)北海道・東北地区
・会員数に関しては、現状維持が精一杯である。
・会員になってもメリットがないという意識が強い。

・事務局の部屋の確保に苦労している。
・魅力ある活動とはどんなものか考え直していく。

(2)関東甲信越A地区
・入会促進の努力としては、役員が自宅へ出かけていて依頼すると効果的である。

(3)関東甲信越B地区
・99%加入率の県は、現役校長が準会員になっているからだ。

(4)東北陸地区
・意識との格差が大きい。

(5)近畿地区
・会員増強に関して、本部からの勧誘だけでなく、支部の役員からの働きかけをして効果を上げている県がある。

・平常から現職校長会との連携を深めていく。
・退職校長は、入会する会が多数あることも全連退への加入者が伸び悩んでいる原因だ。

・退職校長会に入った時のメリットは何かをはっきりさせていく必要がある。
・教育委員会とのふだんから

意識との格差が大きい。

・会員増強対策として、県レベルの対応と支部レベルの対応において同じ目線で対応していく。

・現職校長と退職校長の連携を深めていく。
・会員相互の絆を強める。

・全連退の出版物をB判からA判にしてほしい。
・加入率の計算について、分母をはっきりとした基準で定めてほしい。

・役員からの働きかけをして効果を上げている県がある。

・平常から現職校長会との連携を深めていく。
・退職校長は、入会する会が多数あることも全連退への加入者が伸び悩んでいる原因だ。

・退職校長会に入った時のメリットは何かをはっきりさせていく必要がある。

・教育委員会とのふだんから

意識との格差が大きい。

・会員増強対策として、県レベルの対応と支部レベルの対応において同じ目線で対応していく。

のつながりも大切だ。

(6) 中国地区

・平成の大合併により校長人事が広域になってきた。そのため遠隔の地で退職される人が出てきた。

・現職校長との懇談会が大事だ。

・損保の勧誘の機会に、会員になることも勧誘すると良い。

・各地区の歴史や実態に対応していく必要がある。

(7) 四国地区

・新政権の教育施策を早く知りたい。

・厚生事業の柱を具体的に決めてほしい。

・全連退主催のイベントがあれば、ぜひ参加したい。

・本部からの情報等の配送に、事務局は苦慮している。

・HPを各県で開き、本部との情報交換を円滑にする。

・会員名簿は必要だ。なくなると組織が半分くらい減るおそれがある。

(8) 九州地区

・現職校長との連絡会・懇親会を持って、信頼関係を築

く。

・現職校長に賛助会員や準会員になってもらい、会費をいただき、会報等を増刷して送っているところもある。

10、会長のまとめ

・地区での意見交流は時間があればもっと多くの意見が出たであろう。

・連帯感の欠如は、教育界だけでなく、社会全体の傾向である。これは教育上の課題であるし、日本国の課題でもある。

・地方分権化が進むと、活動内容、活動の仕方が地域によって違ってくる。

・現職の校長や教員が、夢と希望と理想を持って毎日の生活に取り組んでいくことができるように、われわれが援助していかなければならない。

・現場の校長との交流においては、校長の悩みを聞くことが先だということを、常に心掛けていくべきこと、

・全連退本部でやるべきこと、やらなければいけないこと

は、各省庁への要望等の交渉や国会議員への働きかけである。しかし、このことは、各県の一人一人の協力がなければ実りは多くならない。

・県段階でできることと支部段階でできることをしっかり仕分けをして、共通理解を持って活動していかなければならない。

・来春退職する校長を訪問するだけでなく、ふだんから地区の学校公開や学校行事に積極的に参加していく。

・そこで校長との意見交流を行っていく。このような平素の地道な活動をしていて、改めて交流会を行えば、中身も変わってくるだろう。

○皆さん方の声を聞きながら、以上のようなことを考えました。

11、「全連退の歌」斉唱

指揮 中原慎三事務局次長

12、閉会の辞

大山 睦副会長

全連退の主な活動内容は？
インターネットのホームページで「全国連合退職校長会」を検索してご覧ください。そこには、会則、綱領、目標、宣言・決議、事業計画、活動報告、トピック的活動内容、会報、全連退情報、発行図書、コラムなど、ずらり並んでいます。是非ご一読ください。

全国連合退職校長会

文部科学省へ意見・要望書

全連退は、組織として、文部科学省へ要望等を伝えていますが、会員の一人として、要望等をPCで伝える場合は、左のように操作してください。

文部科学省のホームページを開く

↓
「窓口案内」の、「意見・お問い合わせ」を左クリック

↓
文科省で受け付けている内容等が示されます。(37項目あります)

↓
意見・要望を述べたい項目を左クリック

↓
「入力フォーム」が、示されます
各項目総てを、入力します

↓
 ボタンを押す。